

令和7年度 白河市議会議員研修会

～福島県南地域の救急医療の現状と未来について～

1月23日、白河厚生総合病院救急治療科部長の安田貢先生を講師に招いて、福島県南地域の救急医療の現状と未来について講演していただきました。

先生は筑波大学脳神経外科、臨床医学系講師、東日本大震災を経験し、災害対策や支援活動を通じて、故郷福島への思いが強くなり、福島に戻られました。先生が具体的に実施された主な事例は次の通りです。

- ① 1市・4町・4村の救命救急医療の充実を図るため、令和7年1月、白河厚生総合病院に県南初の救急科を新設。常勤専任医3人を配置し、対応可能な患者に対処する体制へ。
- ② 地方医療過疎地域における病院前救護体制の強化のため、ドクターカーをドクターヘリとともに運用し、陸と空での救急充実へ。
- ③ 2024年からの社会実験を経て白河消防管内でドクターカーを標準的な病院前救護体制に組み入れ。
- ④ 白河厚生総合病院への救急車からの連絡体制を2024年11月末から変更。
- ⑤ 出前講座を積極的に実施して、救命救急医療の現状を地域住民と共有。

今回の講演で、救命救急医療の大切さを実感しました。一人でも多くの市民の方が、先生の出前講座を聴いて、救命救急医療の現状を共有することが大切だと感じました。



議会報編集委員会

～行政視察レポート～

所管事務調査の一環として1月29日に、埼玉県大里郡寄居町にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉委員長：高島 裕 副委員長：戸倉 宏一
委員：佐川 琴次 委員：遠藤 公彦
委員：永山 均

埼玉県大里郡寄居町

【議会だよりの編集・発行について】

寄居町議会広報広聴特別委員会は、「読まれない議会だよりは出す意味なし」という編集方針のもと、多くの町民登場を心がけ、まずは興味を持って手に取ってもらえる広報誌をめざしています。全国町村議会議長会主催広報コンクールで日本一を3連覇している議会報であり、入賞以来全国から約300の議会が視察に訪れているとのことでした。委員自らがテーマを決めて町民に取材を行い、町民の声を忖度なく掲載しており、また、町民の目線に立って議員活動を分かりやすく伝えていきます。町民を第一に考える、町民を主役とした議会広報誌の作り方は、非常に学びが多く、大変参考になりました。本紙の議会広報誌が、さらに市民の皆様読みやすい、議会広報誌となるよう委員一同努めて参ります。

